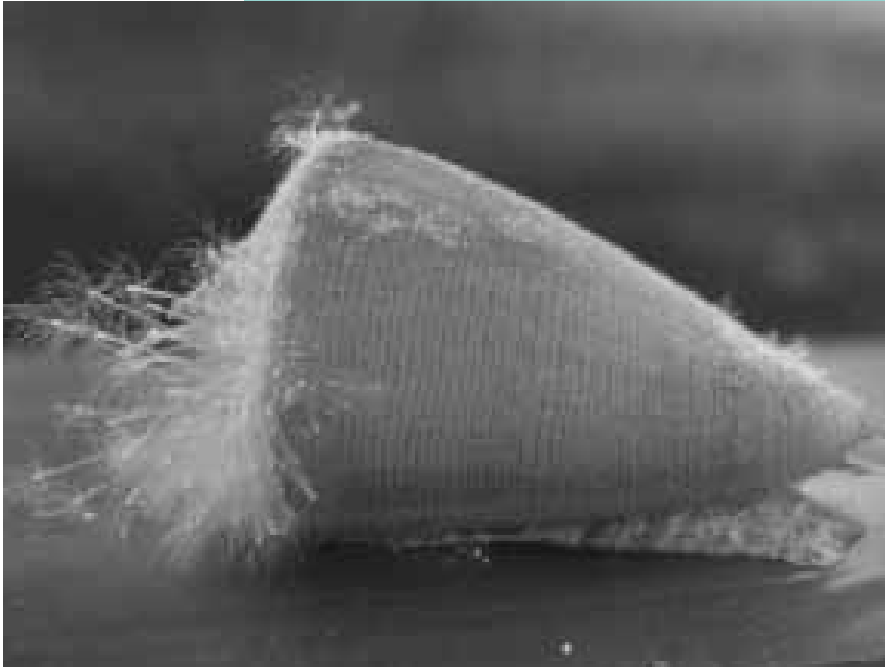


## ヒドロ虫をまとう巻貝 Snail covered with hydrozoan



時々、“毛”のはえた巻貝を見かける。もちろん、本物の毛ではないのだが、白い糸のようなものがふさふさと流れにたなびく様子は、硬い貝殻を見慣れている目には不思議な光景だ。この毛の正体は、ヒドロ虫である。顕微鏡の下で観察すると、貝殻の上に網目状のストロンが広がり、そこからたくさんのポリプが林立して、群体を形成しているのがわかる。写真はイモガイ科のロウソクガイで、ヒドロ虫はウミヒドラ属の一種と考えている。阿嘉島ではこのほかにも、クロザメガイモドキ、ミノムシガイの一種、ニクイロフデガイ、ムシロガイの貝殻上にヒドロ虫が生息しているのを確認しており、しかも、ロウソクガイとクロザメガイモドキのもの以外は、すべて異なる種のようなのである。これらのヒドロ虫は何故貝殻上に生息しているのだろうか。単なる偶然か、あるいはそこを選択したのか。1900年代後半にカイウミヒドラやタマクラゲといった巻貝に生息するヒドロ虫類の研究が行われ、幼生の着生場所の選択性などから、それらと宿主は共生関係にあると考えられているが、阿嘉島にすむ巻貝とヒドロ虫も同じかもしれない。

採集・撮影：岩尾研二  
 採集日：2006年12月14日  
 採集場所：阿嘉島マジノハマ砂底

### 編集後記

編集 岩尾研二（研究員）

来年2008年は“国際サンゴ礁年”です。これは、さんご礁保全の取り組みを広く浸透させるために世界中で様々な行事や活動をおこなおうという年で、実はすでに1997年に第1回目が実施されました。しかし残念ながら、このときは日本ではあまり周知されなかったもので、覚えのない人も多いと思います。けれども、世界中では様々な活動が展開され、さんご礁保全に対する意識を世界的に高めることに成功しました。リーフチェックはその代表的なものの一つです。第2回目の2008年には、日本でもさまざまな取り組みを行おうと、企業・ダイビング団体・自然保護団体・自治体・研究者などが集まって現在話し合いを行っているところですから、充実した活動が企画されることと思います。もちろん、その年だけさんご礁保全を頑張れば良いというものではありませんから、その機運を高めて将来につながる取り組みが開始されることを期待しています。ところで、私たちのおこなう委託事業や補助事業は、期間が限定されているだけに、集中的にテーマに取り組むチャンスです。今号には、そうした2つのプロジェクトの成果が掲載できました（環境省試験研究費7-11ページと海洋政策研究財団補助金19-23ページ）。しかし、これも国際サンゴ礁年と同じで、その期間だけで終わりにするのではなく、それらの成果を次の研究や保全活動に活かしていかなければなりません。これからも、切り花ではなく、土から生えた木のような取り組みをおこなうように心がけていきたいと思ひます。



発行人  
 ESTABLISHMENT OF TROPICAL MARINE ECOLOGICAL RESEARCH

**財団法人熱帯海洋生態研究振興財団**

〒141-0031 東京都品川区西五反田1-26-2 五反田サンハイツ614号 TEL. & FAX. 03-3490-7266

AKAJIMA MARINE SCIENCE LABORATORY

**阿嘉島臨海研究所**

〒901-3311 沖縄県島尻郡座間味村字阿嘉179 TEL. 098-987-2304 FAX. 098-987-2875  
 E-mail: amsl@ryukyu.ne.jp Homepage URL: <http://www.amsl.or.jp>